

私の一般質問 市長答弁

一般質問は議会にて自分の意見を言うことのできる唯一の機会でありますので、その時期における課題だと思ふ政策的事項を中心に質問することに努めています。今2月定例会においては、子育て世代から強い要望のあるインフルエンザ予防接種の助成に絞って質問致しました。

子どものインフルエンザ予防接種の助成について

質問 (通告書全文)

子育て世代の切実な要望として、子どものインフルエンザ予防接種に対する費用助成がある。任意ではあるも、1人2回の接種ということで@4,000×2で8,000円かかる(医療機関によって金額は異なる)。

子どもが2人・3人であるなら費用負担は更に大きくなる。それゆえ、接種はしたいけれども出来ないとする家庭もあろう。それが、インフルエンザ流行につながる要因の一つになる可能性もある。そうしたことから、65歳以上の高齢者のインフルエンザ予防接種が1,000円となっている(市が約3千円を負担)ことと比べて不公平感を生じさせている。

“子育てなら磐田”を標榜し、子育て支援を最優先におく磐田市として、他市の例を参考にしての検討について、当局の見解を伺う。

市長答弁

予防接種法に位置付けられている定期予防接種の接種勧奨や周知に取り組むことが最優先と考えており、定期接種となっていない子どものインフルエンザの公費助成は、現段階では考えていない。

再質問

- ・他市の例では、1回1,000円の助成が多く、回数では1～12歳までが2回、中学生が1回の助成とする市町が多い。また、磐田市の中학생までの人口は、高齢者の約1/2であって、高齢者の助成金額より少なくて済むと思うが、こうした点からの検討の余地は如何か。
- ・浜松市・袋井市・掛川市等西部地区ではこの助成まだやっていない。この磐田市から、ファーストペンギンになるつもりで発信していただけないのか。

市長答弁

子育て世代の要望は高齢者世代よりも多岐にわたっており、少し時間をいただきたい。福祉分野は、できれば県内で統一すべきという考え方を持っており、西部の首長の会合の時、この話を出してみたい。

平成28年2月定例会 一般質問全文

平成28年3月7日 絹村和弘

それでは通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

私は、一点に絞ってお伺いいたします。

インフルエンザが昨年を上回って流行しています。静岡県は、2月第1週から定点医療機関の〔静岡県の定点医療機関は、小児科・内科を合わせて139カ所あるとのこと〕その一医療機関あたり1週間の患者数が、30人を超える「警報レベル」になりました。(この警報レベルは、厚生省流行度5段階表示の最も高いレベルの「大流行」に相当します。) そうした中で、ご当地の西部保健所におきましては、2/8の第2週から、その県平均値を上回る「警報レベル」となり、2/8～14の週が46.63、2/15～21の週が52.32、2/22～28の週が41.58となっていて、現在はピークからは患者数が減少傾向であります。また、「警報レベル」が継続中の状況です。

こうした大流行の状況から、磐田市内の小中学校におけるインフルエンザによる学年閉鎖・学級閉鎖の状況を伺ったところ(1/28～3/3の数値であります)、

学年閉鎖 小学校 6 中学校 1

学級閉鎖 小学校 32 中学校 5 となっているとのことあります。

毎年のことながら、この時期、子どもを持つご家庭の、インフルエンザに神経をとがらせ心配する

お気持ちはお察しして余りあるところです。先週は高校入試もありましたし心配だったであります。インフルエンザにかからないように、かかったとしても軽くすむように、と誰もが予防接種はしたいと望むわけですが、そこには“お金がかかる”という切実な問題が立ちはだかることとなります。

そうしたことで「**子どものインフルエンザ予防接種の助成について**」お伺いいたします。

子育て世代の切実な要望として、**子どものインフルエンザ予防接種に対する費用助成**があります。任意ではありますが、小学生までは1人2回の接種ということで@4,000×2で8,000円かかることになり（金額は医療機関によって異なります）、

子どもが2人・3人であるなら費用負担は更に大きくなり、そのうえお父さんもお母さんも接種したいわけですので大変です。小学生までのお子さん3人とご両親のご家族ですと32,000円かかります。

それゆえ、接種はしたいけれども出来ないとする家庭もありましょう。本来は2回接種するとなっていますが1回でいいにしておこうという家庭もあります。それが、インフルエンザ流行につながる要因の一つになっている可能性もあります。

インフルエンザの流行は医療費の増加につながりますし、学級閉鎖や自宅待機は社会的損失につながります。

そうしたことから、65歳以上の高齢者のインフルエンザ予防接種が1,000円となっていることと比べて（市が約3,000円負担しています）、子どもの予防接種促進に関し、後押しがまだ少し足りないと感じます。（若い世代の人たちは、不公平感さえ持っています。）

“子育てなら磐田”を標榜し、子育て支援を最優先におく磐田市として、他市の例を参考にしたの検討について、当局の見解を伺います。

補足させていただきますが、私は、本来は、出生率を上げ人口減を止めたいとして、子育て世代の支援を最重要課題に掲げる国が、任意でなく定期接種化を打ち出して、高齢者と同様に対応すべきと考えるのですが、なぜかまだそうした動きが見えません。

ならば、“子育てするなら磐田市”として、国の対応を待つのでなく、任意ではあっても市の公費で一部助成してほしいと願い、見解をお伺いさせていただき次第です。よろしくお願い致します。

下記の趣旨で再質問を行いました。

再質問 1.

他市の例を見ますと、助成金額も助成回数も様々ですが、金額では一回につき@1,000円の助成が多く、回数では1歳から小学生までが2回、中学生が1回となっている市町が多い。磐田市より人口規模の大きい富士市や安城市の例では、助成金額は1回につき@1,000円で、回数は、1歳から小学生が2回、高校生・中学生が1回となっています。

助成するとなれば、接種する児童が増えて、大きな金額になるだろうとは思いますが、磐田市の子ども人口は、1歳から12歳までが17,900人、13歳から15歳が4,800人で、高齢者人口と比べれば、約1/2の対象者ということになります。

そうしたことで、高齢者への助成額とは低い金額で済むかと思っておりますので、そうした点から検討の余地を見い出してほしいと思っておりますが如何でございましょうか。

(副反応によって健康被害が発生した時の心配については、任意ですから法による救済制度の対象ではありませんが、他市事例では独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることになるとありますので、そうした活用でいけるのではないかと思います。)

再質問 2

冒頭で“他市事例を参考にして”と申し上げましたが、この**子どもへのインフルエンザ予防接種助成**は、周辺の浜松市でも袋井市・掛川市・静岡市でもまだやっておりません。県内では富士市と焼津市とか、やっている市町は限られているかと思います。

そうしたことで、西部地域のファーストペンギンになるつもりで、この**磐田市から発信してほしい**と思い質問しておりますが如何でありましょうか。よろしくお願いします。

以上

※ () は、口頭では言わずに終わりました。